

## 郷土館発

段戸山に鉄道があった  
ことを知っていますか

段戸山は広大な面積をもつ国有林です。江戸時代は幕府領(天領・御林)。明治以後戦後までは御料林(皇室所有の山)でした。(面積約五千四百ヘクタール＝旧津具村全面積)

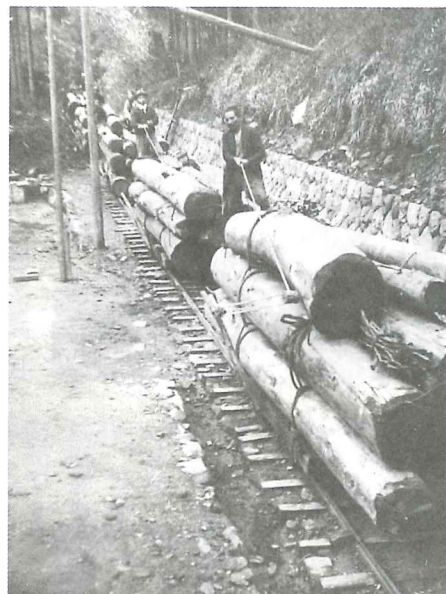
森林鉄道は皇室の財産である御料林の木材を運搬するために昭和六年から数年かけて、宮内省により敷設されました。

森林鉄道の起点を田口線の三河田口と田峯の二つの駅に設置し、木材は起点駅で田口線に引き渡しました。

三河田口駅からは、本谷線と途中から樫尾の谷に向かう樫尾線がありました。田峯駅からは、



田峯始点



引っ張っているロープは  
トロッコのブレーキ

鰻沢線と枋洞線があり、合計四線。全線距離四一・三三三キロメートル。田口線(本長篠～三河田口間)の約二倍です。

鉄道と聞くと機関車で木材を満載した貨車を運ぶイメージですが、森林鉄道はそれとは違います。森林鉄道で材木を下ろす(運搬する)時は、山道の勾配(下り坂)を生かしてトロッコで運びました。機関車は、山の上にある集材場までトロッコを運ぶ時に活躍しました。

森林鉄道の不思議はまだまだ沢山あります。郷土館で森林鉄道の不思議と触れ合ってみませんか。

(奥三河郷土館

館長 加藤 紘市)



三都橋津島神社近くの車庫前

※郷土館の玄関に、段戸山の森林鉄道に関わるコーナーを設置しました。

※ホームページも開設しています。

「森林鉄道段戸山今昔」・「田口線(田口鉄道)今蘇る」で検索できます。

※二月末、森林鉄道で働いていた方からお話を聴く会を予定しています。

